



人間の運命

ショーロホフ著 米川正夫 漆原隆子訳 改版
角川書店 2008 (角川文庫)

サイのクララの大旅行 - 幻獣、18世紀ヨーロッパに行く

グリニス・リドリー著 矢野真千子訳
東洋書林 2009

商学部准教授 飯田 巳貴

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。新入生を迎える立場になって数年経ちますが、毎年この時期に思い起こすのは、あまりぱっとしなかった大学生なりたての自分の姿です。希望して入学したはずの大学で、受けるべき講義と自分のやりたいことがかみ合わず、鬱々と過ごしていました。今思えば、あんなに^{かたく}頑なにならずにもっと目と耳を外に向けていれば案外扉は開いた気がします。それができなかったのも、20歳前後の心理だったのでしょう。その頃折に触れて開き今でも時々読み返すのが、ロシアの作家ショーロホフの短編集『人間の運命』です。題名は堅苦しいですが、帝政ロシアからソビエトに移行する時代の、ロシアの庶民生活から題材をとった珠玉の短編が収められています。話はどれも勧善懲悪ではなく、きちんと決着がつくわけでもありません。彼らの喜び^{ほうふつ}苦しみはこの後も形を変えて続いていくことを^{たくま}髣髴とさせていますが、全編を通して、ロシアの庶民の持つ^{たくま}逞しさ、忍耐力、人間の強さが綴られています。上手くいっていない時、人は他人の言葉や本に何か救いがないかと探すものです。しかしあまりにうまい話ばかり聞いても、今の自分と比較してさらに落ち込んだり、と場合

によっては逆効果になりかねません。すぐに解決はしないけれど、とりあえず生きていけば何とかなる、という程度の話も結構いいものです。もうちょっと前向きな話がいい、という人にはグリニス・リドリー著 (矢野真知子訳)『サイのクララの大旅行-幻獣、18世紀ヨーロッパに行く』をお勧めします。18世紀なかば、インドに植民していたイギリス人家庭で飼われていた孤児サイのクララが、オランダ人船長の奇抜なアイディアのもとに、ヨーロッパ中を「珍獣ツアー」して回るお話です。オランダ商人は、江戸時代に長崎への公式訪問を許された唯一のヨーロッパ人で、非常に合理的、かつ商才に富んだ人々でした。興行主となったオランダ人船長は、次々とクララ関連ビジネスを成功させていきます。そのアイディアとバイタリティは、読んでいて楽しく、時間が経過しても色あせることはありません。元気な時、元気がない時、本は私たちにいつも寄り添ってくれます。皆さんも是非、思い出の一冊を見つけてください。